

事業所名		公表日				
こどもサークル勝川		令和8年 3月 31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	・子どもが活動に集中しやすいよう、空間をシンプルに整え、見通しをもって過ごせる環境づくりを意識している。また、声の大きさや一日の活動の流れを視覚的に提示することで子どもが理解しやすく安心して行動できるよう配慮している。	・子どもの特性や理解度には個人差があるため、視覚提示の内容や方法についてさらに工夫し、1人ひとりにより分かりやすい環境設定を行う必要がある。また、設備面においても完全なバリアフリーではない部分があるため、安全面をより高める工夫や継続的な見直しを行ってきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・子どもたちが清潔で心地よく過ごせるよう、毎日朝と帰りに清掃を行い、衛生的な環境を維持している。また、活動内容に応じて空間を広く確保できるよう、折り畳み式の机を使用し、柔軟に環境設定を行っている。	・活動内容や人数によっては十分なスペースが確保できていない場合もあるため、より効率的な空間の使い方を検討していく必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・個別の部屋は設けていないが、パーテーションやカーテンで空間を仕切ること、必要に応じて落ち着ける場所や個別に対応できる環境を確保している。	・完全に独立した個室ではないため、周囲の視線の影響を受けやすい場合がある。そのため、より落ち着いて過ごせる環境作りについて検討するとともに、子どもの状態に応じた空間の使い方や配慮をさらに工夫していく必要がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・定期的に職員と話をする機会を設け、意見や気づきを共有できるようにしている。また、課題や検討が必要な内容については打ち合わせの場を設け、業務や支援の進め方について話し合い、改善に繋げている。	・職員間での意見共有は行っているが、全ての意見を十分に業務改善へ反映できていない場合もあるため、より具体的な改善策まで落とし込む仕組みづくりが必要である。また、継続的に見直しを行い、話し合いの内容が実際の支援にどのように活かされているかを確認していくことも課題である。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・保護者との面談に加え、連絡帳や送迎時の会話を通して日頃から蜜に連携を図り、ニーズや課題の把握に努めている。また、日々の子どもの様子について職員間で記録・共有を行い、多角的な視点から1人ひとりの状況を分析し、話し合いを重ねながら計画作成に活かしている。	・日々の情報共有は行えているものの、情報量が多くなる中で分析が不十分になる場合があるため、より客観的かつ体系的にまとめていく必要がある。また、保護者のニーズをより的確に反映できるよう、意図や背景まで丁寧に汲み取る関わりをさらに意識していきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・計画作成の前後に打ち合わせの機会を設け、児童発達支援に関わる職員間で情報共有や意見交換を行っている。また、子どもの最善の利益を考慮しながら、目標達成に向けた具体的な支援方法について話し合い、共通理解をもって支援にあたれるようにしている。	・職員間での話し合いは行えているものの、意見の偏りや共有のばらつきが生じる場合もあるため、より多くの視点を取り入れた検討ができるよう工夫が必要である。また、話し合いの内容を具体的な支援に確実に反映させるため、記録の充実や振り返りの機会を設け、継続的に見直ししていくことが課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画作成後に職員間で内容の共有を行い、支援の方向性について共通理解を図っている。また、日々の活動前にも担当職員が1人ひとりの支援方法について共有し、計画に基づいた支援が実践できるようにしている。	・計画の共有は行えているものの、日々の支援の中で計画内容の意識に差が出る場合があるため、継続的な確認や振り返りの機会を設ける必要がある。また、支援が計画に沿って適切に行われているかを定期的に見直し、必要に応じて柔軟に修正していくことも課題である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・毎月の活動プログラムについて、チームで検討するための打ち合わせを行い、職員間で意見を出し合いながら立案している。子どもの実態や課題を踏まえ、多様な視点を取り入れた活動内容となるよう意識している。	・活動プログラムの立案は行っているものの、子どもの発達段階やニーズに応じた幅広い活動を取り入れていく必要がある。また実施後の振り返りをより充実させ、次のプログラムに具体的に活かしていくことも課題である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・学校行事等の状況も把握し、それに合わせた活動プログラムを取り入れることで、無理のない参加や子どもたちの実態にあった内容となるよう工夫している。また、運動・制作など活動内容が偏らないようバランスを意識し、多様な経験ができるようにしている。さらに、日頃の子どもや保護者の意見も取り入れながら柔軟にプログラムを検討している。	・活動内容は幅を意図しているものの、継続する中で似たような内容になってしまう可能性もあるため、新たな活動の導入や工夫を継続的に行う必要がある。また、子ども1人ひとりの興味や発達段階により適した内容となるよう、個別性をさらに意識したプログラム構成を検討していくことも課題である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	・基本的には集団活動を中心に行っているが、活動内容や子どもの状況に応じて、個別に取り組める環境を整えている。また集団活動の中においても個別の支援が必要な児童には職員を配置し、1人ひとりに応じた関わりができるよう配慮している。	・集団活動が中心となる中で、個別活動の機会が十分に確保できない場合もあるため、より計画的に個別支援の時間や内容を取り入れていく必要がある。また、子どもの発達段階や特性に応じて、個別と集団のバランスを見直しながら、より効果的な支援となるよう工夫していくことが課題である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・毎日支援前に打ち合わせを行い、一日の流れや活動の共有に加え、支援方法や役割分担について確認している。職員間で共通理解を持つことでチームとして連携した支援が行えるよう努めている。	・職員によって支援内容の理解や実践の完成度に差が見られるため、より具体的な共有や確認の方法を工夫していく必要がある。また、打ち合わせ内容が実際の支援にどの程度反映されているかを振り返る機会を設け、全体の質の向上に繋げていくことが課題である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・支援終了後に定例の打ち合わせの場は設けていないが、記録を行うなかで気になる点があった場合には、その都度職員間で話し合いや情報共有を行っている。また、トラブルが発生した際には必ず共有を行い、再発防止や適切な対応に繋げている。さらに子どもができるようになったことや特定の職員との約束事項についても共有し、一貫した支援が行えるよう心がけている。	・定期的な振り返りの場が設けられていないため、情報共有に偏りが生じる可能性がある。そのため、日々の支援をより体系的に振り返る機会を設け、気づきや課題を全体で共有できる仕組みづくりが必要である。また、記録内容をより効果的に活用し、次の支援へ確実に繋げていくことも課題である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・児童1人ひとりの記録ノートを作成し、日々の支援内容や様子について継続的に記録している。また、活動内容を検討する際には記録を振り返り、1人ひとりの状況に応じた支援内容となるよう活用している。	・記録は継続して行っているものの、内容にばらつきが出る場合があるため、より具体的なかつ統一された視点で記録していく必要がある。また、記録を支援の検証や改善により効果的に活かすため、振り返りの機会を意図的に設け、職員間で共有していくことが課題である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・活動の中に子ども自身が選択できる場面を設け、自分で決める経験ができるよう支援している。また、活動への参加・不参加についても、児童の状況に応じて自分の意思を言葉で伝えられるよう働きかけ、自己決定の力を育てる関わりを行っている。	・子どもの発達段階や特性によっては、自分で選択することが難しい場合もあるため、より分かりやすい選択肢の提示や支援方法の工夫が必要である。また、日々の関わりの中で継続的に自己決定の機会を設け、1人ひとりの力に応じた支援をさらに充実させていくことが課題である。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・連絡帳や送迎時のやり取りを通して、家庭や学校での子どもの様子を共有してもらうとともに、事業所での様子も丁寧に伝え、日頃から情報共有を行っている。また、課題が見られた際にはその都度保護者と向き合い、こまめに連絡を取り合うことで、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう努めている。	・日常的な情報共有は行っているものの、保護者によって伝達方法や理解度には差があるため、それぞれに応じた伝え方の工夫が必要である。また、共有した内容をより具体的な支援や家庭での関わりに繋げていくため、継続的なフォローや振り返りを行っていくことも課題である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・定期的に電話連絡を行い、事業所での様子を伝えるとともに、家庭での状況の変化や悩みについて丁寧に聞き取るようにしている。また、不登校など急な状況の変化があった際には面談の機会を設け、情報共有を行いながら今後の支援について話し合い、適切な助言や支援に繋げている。	・保護者からの相談には対応しているものの、状況によっては十分に時間を確保できない場合もあるため、より継続的かつ計画的に相談の機会を設ける必要がある。また、助言や支援内容が家庭でどのように活かされているかを確認し、フォローを行うことで、より実効性のある支援に繋げていくことが課題である。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報については、鍵付きの箱で適切に保管し、管理を徹底している。また、閲覧が必要な場合には発着に確認をとるなど、取り扱いに十分配慮している。	・取り扱い方法について定期的に確認や見直しを行い、より安全で確実な管理体制を維持していくことが課題である。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・現在、てんかんのある児童はいないが、家庭での服薬状況については事前に確認を行っている。また、服薬に伴う眠気などの体調の変化についても保護者と共有し支援時に配慮できるようにしている。さらに、服薬内容に変更があった際にはその都度連絡をもらい、事業所での様子についても共有することで継続的な健康管理に努めている。	・現時点では大きな健康上の配慮が必要なケースは少ないが、今後様々な状況の児童に対応できるよう、服薬や疾患に関する知識を深めていく必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食物アレルギーのある児童については、契約時に症状や摂取可能な状態（加熱の有無など）を詳細に確認し情報を記録している。その内容を職員間で共有し、医師の指示に基づいた適切な対応が行えるよう配慮している。	・万が一の際の対応についても職員間で共通理解を深め、緊急時に迅速かつ適切に対応できるよう体制を強化していくことが課題である。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットが発生した際には内容を記録し、職員間で情報共有を行っている。また、その内容をもとに今後の対策について話し合いを行い、再発防止に向けた取り組みを行っている。	・ヒヤリハットの共有は行っているものの、事例によっては活用が十分でない場合もあるため、より具体的な再発防止策まで落とし込む必要がある。また、同様の事例を未然に防ぐため、定期的に振り返りを行い、職員全体で意識を高めていくことが課題である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			